

13. 知的発達障害児をメインの対象とする余暇支援活動

グループ名 障害児余暇支援団体 えいぶる・ねっと

代表者名 理事長 阿部 友輝

① 活動の目的

障害の有無に関わらず、子どものころに様々な経験や学習をすることは大人になって大きな差になります。特に知的障害や発達障害のある子どもにとって、児童期における支援の充実が重要で、「学校」「療育機関」「家庭」のそれぞれの充実と連携が必要です。

私たちの活動は、知的障害や発達障害のある子どもたちを「余暇支援」というアプローチから支え、「家庭での子育ての支援」を目的としています。

余暇支援プログラムを通じて、子どもたちの「居場所の一つ」になることはもちろん、プログラムの内容は「家庭でも取り組める内容」を重視しており、月2回の活動だけでなく、家庭でも同様の取り組みを継続でき、家庭での子育ての充実も図ることができると考えております。

また、忘れてはならないこととして、きょうだい児のフォローも重要です。月2回の余暇支援プログラムに知的障害や発達障害の子どもが参加することを通じて、そのきょうだい児が親と共に過ごす時間にもなり、日常的に障害のある子どもの影でストレスを感じている可能性のある子どもたちと家族が向きあう時間の提供も重要だと考えています。

② 活動概要

余暇支援活動は、原則月2回、大分県身体障害者福祉センター（大分市大津町）にて知的障害や発達障害児及びそのきょうだい児の参加も可能として実施しました。

参加児童はクチコミでの参加希望が多く、逆にボランティアスタッフの確保が追いつかない状況となり、広く広報をせずにクチコミの範囲での広報活動となりました。

今後、広く広報を行うことで、子どもたちやご家族のニーズはかなり多いことが予想されるため、ボランティアスタッフの拡充が急務であると感じています。

[本助成対象期間における実施日] 17日

10月7日（日）21日（日）、11月4日（日）18日（日）、
12月2日（日）16日（日）、1月6日（日）20日（日）、
2月3日（日）17日（日）、3月17日（日）
4月7日（日）28日（日）、5月5日（日）19日（日）、
6月2日（日）22日（土）

[参加障害児数] のべ143人

[参加スタッフ数] のべ179人

実施した内容は、基本的に毎回同種の内容を繰り返し行うことで、日常生活への汎化を目指しています。よって、日課プログラムの内容に沿って、詳細な実施内容を次のとおり報告します。

i バスライド（往路：9時～、復路：12時50分～）

バスライドは余暇支援の会場である大分県身体障害者福祉センターまで公共交通機関に乗る練習をするというもので、スタッフが一緒に乗ることで、子どもたちがバスに慣れ、段々と「整理券をとる」「お金を払う」などできるようになりました。



ii コアキッズ体操（9時35分～10時5分）

コアキッズ体操は、運動する機会が不足しがちな障害の子どもの体幹を遊びながら鍛えていくことを目的に、コアコンディショニングの専門家のご協力によりプログラムを検討、実施しています。

単純な運動ではなく、ボールを使ったり、競争する要素を取り入れるなど、遊びの中から楽しく取り組める工夫は、子どもたちにも受け入れてもらい、笑顔の絶えないプログラムとなりました。

また自宅でご家族にも覚えてもらって日常的に取り組んでもらえるように努めて実施しました。



iii パソコンで遊ぼう（10時10分～10時40分）

パソコンは今や社会人では必須となっていることから、社会人になった時に「使える！」ということを目指して、電源の操作からゲームを通じたキーボードやマウス操作などを、スタッフとともに取り組みました。だんだんとパソコンに慣れてきており、中にはパソコンで絵を描けるような技術を身につけた子どもでできました。



iv スポーツチャンバラ (10時45分～11時15分)

スポーツチャンバラは非常に簡易なルールで行われるスポーツであり、武道ですので、普段運動する機会が不足している子どもたちが遊びながら汗をかくこと。また礼儀作法も同時に学ぶことができ、本当に子どもたちもスタッフも楽しい時間となっています。



v 音楽で遊ぼう (11時20分～11時50分)

音楽は「聞く」「音を発する」というコミュニケーションの基礎をきづくものであり、コミュニケーションが苦手な子どもも楽しく「いろんな音を表現する」ことや「聞きながら合わせる」といった協調性を養うことも目的として行ってきました。

怒っているときは激しく、疲れているときは小さくなど子どもたちの表現力も向上し、回を重ねるごとに新しい発見や成長を感じられる時間となっています。



vi 昼食 (11時50分～12時40分)

昼食はプログラムの中で一番人気の時間となっており、朝の受付の時に、おもちゃのお金を使って、「メニューをみる」「自分で選ぶ」「金額を支払う」といったご飯が大好きな子どもたちが、好きなものを買う！という機会を通じて、「お金を使う」練習にもなっています。

また、ご飯の時間は、スタッフ、子どもたちごちゃまぜで楽しく食べる時間となっており、みんなの笑顔がいっぱいの時間となっています。



こうした基本プログラムを繰り返すことで、まずは「子どもたちの安心できる居場所」として認知してもらうことを重視しました。「ここにくれば楽しい！」という思いを持つことは、活動意欲にも反映され、子どもたちを成長させます。

定期的なプログラムを通じて、子どもたちは例えば「バスに乗る際の支援を必要としなくなった」子どもや「パソコンを操作して文章を書く」ことができるようになったりという成長が個々に見られます。同時に、いつも会うスタッフや子どもたち同士で、支え合ったり助け合う状況も自然と生まれ、小さい子ども（最年少は5歳）を中学生などが面倒をみながらプログラムに取り組むような場面は、ご家族が全面的にお世話をしてしまいがちな家庭生活や近しい年齢だけの学校生活だけでは見ることができなかつた成長です。

また、余暇支援活動を通じて、子どもたちが成長するとともに、スタッフも一緒に成長している姿も見ることができます。特に、スタッフとして大学生が参加してくれていますが、最初はどう接してよいか分からず表情の硬かった大学生が、今では子どもたちに囲まれて一緒に遊んでいる姿は、決して子どもたちのためだけではない活動の意義を感じ、こうした活動の話を広げることが、障害の有無に関わらず、誰もが一緒に支え合う社会の一步であると感じてやみません。

こうした活動を今後も継続していくことを決意するとともに、今回助成いただきました大同生命厚生事業団さまに改めまして感謝を申し上げたいと思います。

③ 決算報告書

収入の部	123,377
大同生命厚生事業団助成金	100,000
えいぶる・ねっと通常会計より	23,377
支出の部	123,377
レクリエーション保険	30,800
スタッフ弁当代	57,240
飲料代	4,005
余暇支援物品購入費	31,332
チャンバラ用剣	6,760
チャンバラ用面	19,650
プログラム用消耗品（紙・色鉛筆 等）	4,922

以上、ご報告します。